

群馬県「社長年齢」分析調査（2023年）

群馬県社長の平均年齢、60.8歳で過去最高 調査開始した1990年から7.4歳上昇 ～社長の8割が「50歳以上」、若手経営者は僅かにとどまる～

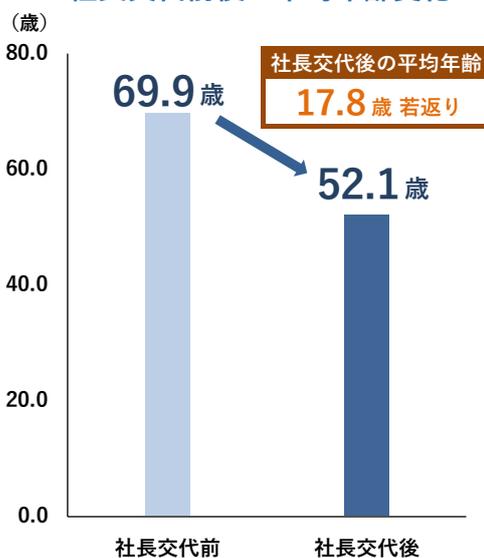
「団塊の世代」の多くが後期高齢者に達し、事業承継の課題が一層深刻になるといわれている「2025年問題」まで、残すところ1年を切った。

帝国データバンクが実施した調査では、2023年における全国の後継者不在率は改善傾向が続き過去最低の53.9%となった。円滑な事業承継には中長期的な準備期間が必要であるが、足元では社長の高齢化には歯止めがかからない状態が続いており、バトンタッチが間に合わず事業継続に影響を及ぼすケースが増加する可能性を孕んでいる。

社長平均年齢/社長交代率の推移



社長交代前後の平均年齢変化



調査結果（要旨）

- 2023年時点の社長の平均年齢は60.8歳。前年を0.1歳上回り、15年連続上昇で過去最高を更新
- 社長が交代した割合は3.37%、前年からほぼ横ばいで13年連続の3%台
- 「50歳以上」の社長は8割超、「40歳未満」の若手経営者は2.5%にとどまる
- 都道府県別、トップは秋田県62.5歳、群馬県は埼玉県と並んで22位

■ 本調査では、企業概要ファイル「COSMOS2」（約147万社収録）から2023年12月時点における企業の社長データ（個人、非営利、公益法人等除く）を抽出し、集計・分析した

止まらぬ社長の高齢化、60.8歳と過去最高 社長交代率も未だ低水準

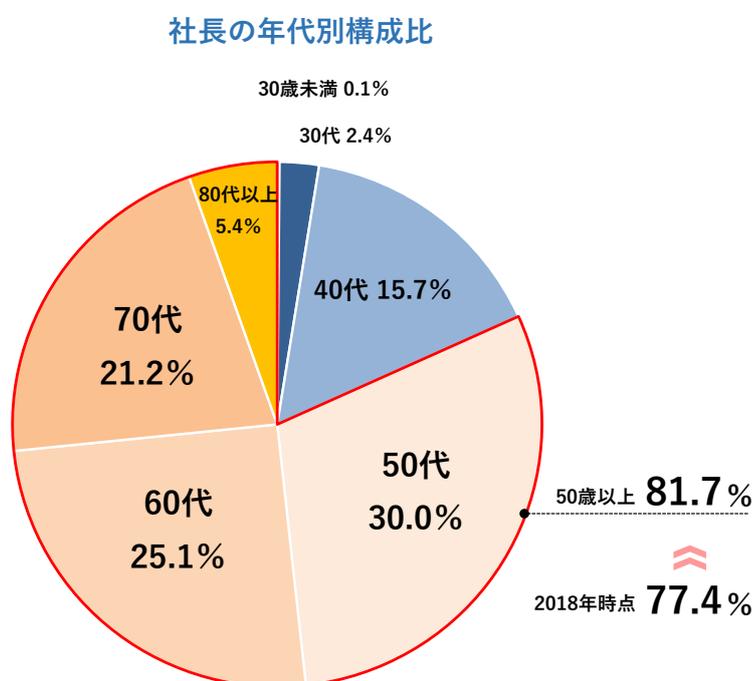
群馬県の社長平均年齢は、統計として遡れる1990年からほぼ毎年上昇し続けている。今回の調査でも同様の傾向となり、2023年は前年比0.1歳上昇の60.8歳となった。加えて、2023年における前年からの社長交代率は3.37%となった。13年連続で3%台が続いており、前回調査(3.32%)からほぼ横ばいだった。総じて、社長の世代交代は活発な様子は見られず、社長の高齢化はさらに進行しているとみて良いだろう。

社長が交代する際の年齢は平均で69.9歳となり、前回調査(70.6歳)からほとんど変わらなかった。高齢ながら社長として経営を続けることにはリスクがともなうなかで、ほぼ70歳で後継者にバトンタッチをしている結果となった。そして、社長交代後に就任する新社長の平均年齢は52.1歳となり、17.8歳の若返りがみられた。

<年代別構成比> 「50歳以上」の社長は81.7%と高水準、若手経営者はわずかにとどまる

2023年時点における社長の年代別構成比をみると、「50歳以上」が81.7%となり全体の8割以上を占める結果となった。

近年はスタートアップなど新興企業を中心に若手経営者に注目が集まっているものの、「40歳未満」は2.5%、なかでも「30歳未満」はわずか0.1%に過ぎず、若手社長の割合は依然として低い水準にとどまっており、スタートアップや起業支援の必要性が高まっているといえよう。



年	平均年齢	30歳未満	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
2018	60.0歳	0.2	3.4	18.9	24.4	29.6	19.6	3.8
2023	60.8歳	0.1	2.4	15.7	30.0	25.1	21.2	5.4

(単位：%)

<業種別> 「不動産」が63.3歳と高水準で、80歳以上は9.8%と10%に迫る

社長平均年齢を業種別で見ると、「不動産」が63.3歳で最も高かった。また、不動産業のうち80歳以上は9.8%と10%に迫り、8業種中で最も高かった。「貸事務所業」や「貸家業」などの高齢化が進んでいるものと推察される。また、社長平均年齢が60歳未満となったのは「運輸・通信」（59.7歳）と「建設」（59.9歳）の2業種のみとなった。

参考までに、全国の上場企業の社長平均年齢は58.6歳だった。2023年時点の20代社長は2名で、ANYCOLOR（東京都港区、東証プライム上場）の田角陸氏（28歳、当調査時点）に続いて、2023年9月27日に新規上場を果たしたAVILEN（東京都中央区、東証グロース上場）の高橋光太郎氏（29歳）も20代社長となった。

業種別 社長平均年齢・年代別構成比

業種	(歳)								(%)
	平均年齢	30歳未満	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	合計
建設	59.9	0.1	2.2	17.2	32.2	24.7	19.9	3.6	100.0
製造	61.4	0.2	2.1	14.1	30.1	25.8	21.7	6.0	100.0
卸売	61.3	0.1	2.2	14.9	29.6	24.7	22.4	6.2	100.0
小売	61.8	0.1	2.2	14.9	27.7	25.5	22.7	6.9	100.0
運輸・通信	59.7	0.3	1.0	15.7	36.6	26.5	15.6	4.3	100.0
サービス	60.2	0.1	3.1	16.5	30.0	25.0	20.3	4.9	100.0
不動産	63.3	0.3	2.9	13.9	23.4	23.1	26.6	9.8	100.0
その他	60.3	0.0	4.8	16.5	26.5	27.8	20.1	4.4	100.0
全体	60.8	0.1	2.4	15.7	30.0	25.1	21.2	5.4	100.0

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため合計は必ずしも100とはならない。網掛けは全体平均を上回る数値

<都道府県別> 都道府県別では「東高西低」、秋田県が6年連続トップ。群馬県は22位

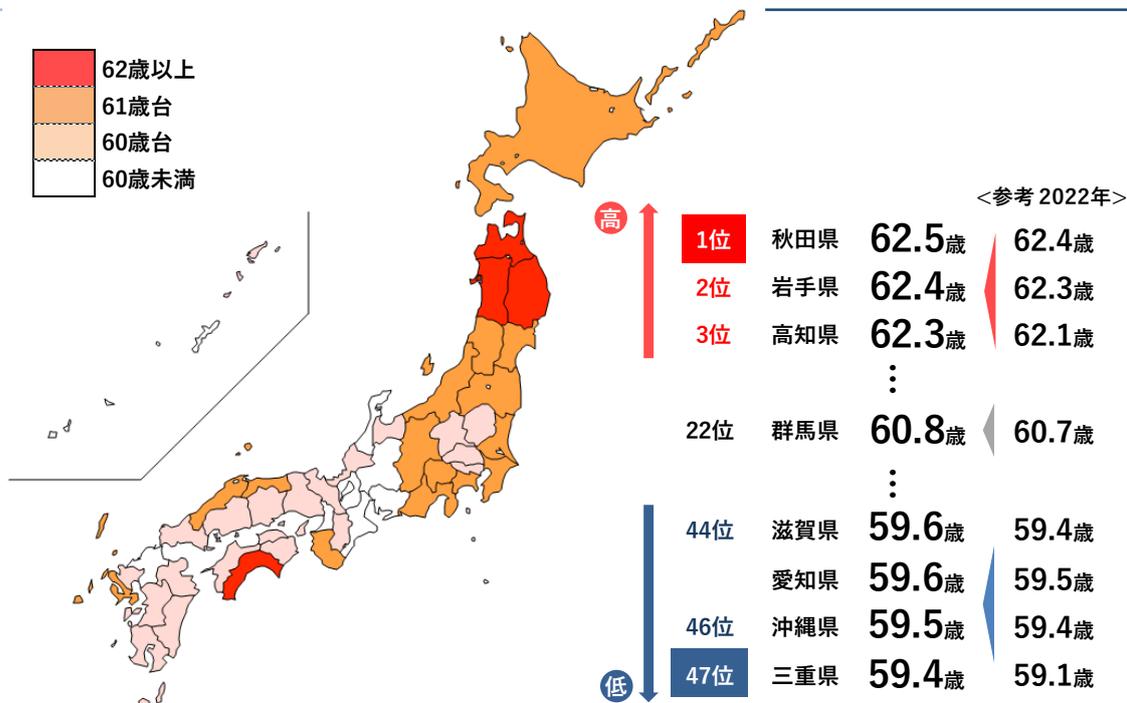
社長平均年齢を都道府県別で見ると、秋田県が62.5歳（2022年比+0.1歳）で最も高かった。1990年から8.7歳上昇しており、6年連続のトップとなった。また、次いで岩手県（62.4歳、同+0.1歳）、高知県（62.3歳、同+0.2歳）が続いた。なかでも、東北地方は6県すべてで全体平均（60.5歳）を上回った。また、前年からの上昇幅としては和歌山県（61.3歳、同+0.4歳）が最も高かった。群馬県は60.8歳で全国では隣接する埼玉県と並んで22位となった。

他方、平均年齢が最も低かったのは三重県で、59.4歳。三重県は2023年時点の後継者不在率が30.2%*と全国で最も低い点も含め、円滑な事業承継の結果が表れているといえよう。一方で、前年から0.3歳上昇しており60歳超えも視野に入ってきた。

なお、47都道府県のなかで社長平均年齢が前年から低下した地域はみられず、鳥取県（61.0歳）、香川県（60.3歳）、佐賀県（60.5歳）、大分県（60.4歳）の4県のみ同横ばいだった。また群馬県は2022年比でプラス0.1歳となった。

* 帝国データバンク『全国「後継者不在率」動向調査(2023年)』2023年11月21日発表

都道府県別 社長平均年齢



今後の見通し：既に後継者難倒産は過去最高水準、社長の「高齢リスク」噴出が懸念

群馬県の社長の平均年齢は上昇傾向が続き、過去最高を更新した。2023年の社長交代では17.8歳の若返りがみられたものの、交代率は3.37%と低位にとどまっている。このまま社長交代率が改善しなければ、さらに社長平均年齢は上昇する。

こうした結果を踏まえ、社長の「高齢リスク」にはさらなる警戒が必要だ。全国2023年度の後継者難倒産は586件で、過去最高を大幅に更新、そのうち約4割は「経営者の病気、死亡」が原因であった。

群馬県においてもこのまま社長の高齢化が続けば、不測の事態が生じる可能性は自ずと高まる。円滑な事業承継を確実に進めていくためには、計画的かつ余裕のある準備が必要となろう。

後継者難倒産 件数推移（全国）



株式会社帝国データバンク 群馬支店長 直井 明彦

【問い合わせ先】 尺 幸夫 027-386-4041 yukio.seki@mail.tdb.co.jp

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。